

ワークショップ「文化・スポーツ施設の将来の方向性を考える」の主な意見

- 1 テーマ :理想的な「将来の府中市」を実現する上で、市民・利用者目線での課題は何か
- 文化・社会教育施設グループは「施設情報の広報不足」を重要な課題と捉え、市民がボランティアで関わったり、絵について語る場を設けたりすることで、施設をより身近にしていくべきという意見であった。

スポーツ施設グループはスポーツ施設を誰にとっても身近な施設とすべく、個人利用者にも使いやすい制度の導入や障害がある方でも使いやすい設備・構造とすることを重要だとする意見があった。また、府中市のスポーツのレガシーを残していくためにも、公式規格に準拠した施設とし、みるスポーツの充実を図る必要性に関する意見もあった。

(主な意見)

【文化・社会教育施設グループ】

配置<拠点性がある施設は駅近くにする>

- ・ 電車で行ける場所が行動範囲となるため、図書館・美術館等の公共施設が駅から遠いと行きづらく、日常的には使えない
- ・ 市民プールは子連れには少し遠く、自転車で行くしかない

量<施設集約化を進める>

- ・ 施設を集約することで施設の専門性は高まる
- ・ 施設を地域の場とするのか(学校開放など)

機能・空間<明るく、使いやすく、楽しい空間デザインにする>

- ・ 宮町図書館はもっと広く、明るく、新しいほうが良い
- ・ ふるさと歴史館は主体的ではなく、直感的に楽しいと思いたい
- ・ 見たい資料を検索しやすく、すぐに読める環境が良い
- ・ アクセシ性が良いところにコンセントがあり、勉強しやすい場所がほしい
- ・ 「安心できる場」とするデザインにすべき
- ・ サークルで利用しやすいような仕組みや設備を導入してほしい

サービス・運営<デジタルを活用した利便性向上と、支援・運営制度の見直しや周知をする>

- ・ 図書館で本の事前予約がしたい
- ・ 情報、予約申込等が一元化されていてほしい
- ・ 自分たちが支えられるサポーター制度は良いが、周知できていないのではないかな
- ・ 運営組織が縦割りの印象だが、利用者の関心は「テーマ」
- ・ 美術館の公開制作はもっとアピールしたほうが良い

その他<施設の自分事化を促進する>

- ・ 文化施設が私の、私たちの美術館・音楽ホールになっていない
- ・ 自分が参加する場になる 自分の絵がのる 自分の絵を自分が活かすことが理想
- ・ どんな施設があるのか、どこにその施設があるのか知らない
- ・ 古墳展示館を知らなかった。もったいないのでもっと広報したほうが良い

- ・ 外部の人が美術館、博物館、劇場等を一日でまわれるように、1テーマで秋のイベントを開催する
- ・ 昔の映画等を大画面で見られたら嬉しい
- ・ 屋外で勉強や作業ができれば、気持ち良さそう

【スポーツ施設グループ】

配置<施設のアクセス性を改善する>

- ・ ラグビー施設をもっと身近にすべき
- ・ 施設間を走るシャトルバスを導入し、アクセスを改善すべき
- ・ 施設のキャラ付け（遠くても行こうと思える仕掛け）が必要

量<施設を集約し、公式規格準拠の施設を設ける>

- ・ 公式規格（陸上競技場、野球場等）に準拠した施設とすべき
- ・ 施設数が多い
- ・ エリア密着型から集約型に変更したほうが使いやすい

（例・テニスコートは2，3面が地域にあるより、1か所に10面あったほうが予約や利用がしやすい）

- ・ 府中刑務所を移転し、跡地に総合的なスポーツセンターを設けられないか
- ・ 企業との協働をすることで、民間のスポーツセンターを設置できないか

機能・空間<多様性に配慮した「利用したい」施設化>

- ・ スポーツ目的ではない人も使いやすいように、カフェや飲食施設を設けられないか
- ・ 多様性に対応する施設とすべき
- ・ 高齢者や障がい者が利用したいスポーツ施設の新設・増設
- ・ 誰でも住みやすい市を体現した施設にすべき
- ・ 利用したい施設にするためにも、トイレなどの施設美化が必要

サービス<既存利用者以外にも門戸を開く取組・制度にする>

- ・ 予約のデジタル化で誰でも利用しやすい施設にすべき
- ・ オンラインのスポーツ教室や、リアル・オンラインのハイブリッドイベントの開催
- ・ 利用者が固定化しないよう、多くの人ができる予約方法にすべき
- ・ 団体にとって使いやすい制度になっているため、個人利用者には使いにくい

管理・運営<民間活力や民間施設ノウハウを導入>

- ・ 民間運営
- ・ 管理者不在で、誰でも24時間使える施設が良い
- ・ 利用者だけで施設の管理・運営を回せる仕組みはどうか
- ・ 公園でイベントを開催し、新たな収益源にしたほうが良い

2 テーマ : 課題を解決する上で、どのような方法・選択肢を選べるか

文化・社会教育施設グループは、ディスカッション対象を美術館に絞り、短期で行えるソフト面の施策と、より長期的なハード面の方向性についての意見が出された。ソフト面については、体験型の展示やイベントの開催が提案され、ハード面については周辺の公園等との回遊性を意識した一体的なコンセプトの必要性が提示された。

スポーツ施設グループにおいては、シンボリックなスポーツ施設を整備する一方、地域スポーツは学校施設との共有化で維持していく案について話し合いが行われた。また、財源確保の方策としてのクラウドファンディングの実施や、スポーツツーリズムの推奨についても意見が出された。

(主な意見)

【文化・社会教育施設グループ】

ソフト面(サービス・運営) < 広報・情報発信、市民参画、様々な対象向けイベントの実施 >

- ・ 公開制作のPR強化
- ・ ボランティアやWS等、市民参画可能なものを検索できる市民参加ポータルサイトの作成
- ・ 近隣美術館との共創や共同情報発信
- ・ 未来の芸術家をつくるプログラムを実施
- ・ 学生とアーティストの対話の機会創出
- ・ 事前知識を必要とせずに楽しめる体験型コーナー・展示の充実
- ・ 話しながら鑑賞できる日や時間帯を作る

- ・ アートやスポーツ等、テーマで周辺施設を回れるように交通手段の情報提供
- ・ 適切な入場料設定

ハード面（機能・空間）＜居心地の良い施設デザインや回遊性を重視した面的コンセプトの作成＞

- ・ 開放感があるデザイン（天井の高さ、光）
- ・ 座って鑑賞できる場所をつくる
- ・ カフェやたまり場スペースを設ける
- ・ アクセスの改善やアクセス中も楽しくできる工夫
- ・ 他施設との回遊性を重視し、面的なコンセプトをつくる

【スポーツ施設グループ】

配置＜エリア型から集約型に変更＞

- ・ 文化センター単位にスポーツ施設の配置を見直す
- ・ プール・テニスコートの集約化

子供連れには身近に地域施設があることが重要

量＜学校施設の活用可能性を検討＞

- ・ スポーツ施設以外にも、学校施設を活用する

現状施設で動線確保ができるのか

セキュリティの課題

更衣室など、開放をするためには現状で設備不足

機能・空間<年齢・レベル別の「するスポーツ」施設と、シンボリック「みるスポーツ」施設を整備>

- ・ 空調設備の整備
- ・ 子供、大人、老人等、利用者のレベルに見合った施設を整備
- ・ 「府中の に行けば、 ができる」という目玉施設を作る
(例：スケートボードレーン)
- ・ 文化・スポーツを融合した施設
- ・ 多目的化と目的特化型施設を使い分ける
「多目的」であるだけでは使いづらい
- ・ 市のシンボルとなる拠点施設を整備
- ・ 広域からも利用されるボールパークを新設し、収益につなげる
(ボールパーク＝種目に縛られず、より気軽に使える施設)

サービス<料金設定の再検討>

- ・ 施設に見合う使用料金にする

管理・運営<民間活力導入や、財源確保のための新たな施策を導入>

- ・ 民間に任せる部分の整理
- ・ クラウドファンディングやふるさと納税の活用
- ・ 収益につながる、ラグビー以外の人気スポーツコンテンツ
- ・ 市民団体が学校で教える制度作り

その他 < スポーツツーリズムの推進や、スポーツチームの持続化に取り組む >

- ・ スポーツツーリズムの推奨
- ・ 地域密着性を重視し、練習場を公開する
- ・ 大國魂神社のスペースを活用
- ・ 市内案内等での広報を強化
- ・ 企業スポーツを地域・市民スポーツにしていく
- ・ スポーツチームの持続的運営を可能とすべく、市民の力や地元企業の力を活かせる仕

組みづくり

- ・ 東府中地区再利用